



令和3年7月1日現在

世帯数	6,260戸
人口	15,486人
男	7,492人
女	7,994人

水神社



水神社

波田26区
の東南の角
に、周りを
松で囲まれ
た一画に、
水神社があ
る。この社
殿にかつて
廻り舞台が
あったと聞き、今回、同神社
に詳しい地元の方にいろいろ
教えを乞い、また土地改良区
のご厚意で社殿内も拝見させ
ていただき、神社紹介の一文
を書いた。

水神社は、波田堰完成を祝
し、明治15年に建てられた。
社殿は拝殿と前宮が一緒に
なった造りであり、前を広く
とりそこに直径2mほどの廻
り舞台が設えられた。床下の
十文字の棒を4人がかりで押
し回す作りだったという。惜
しくも昭和50年代の大改修で
取り壊され、今は一面床板が
張られ跡を留めない。社殿内



右大臣像

左大臣像

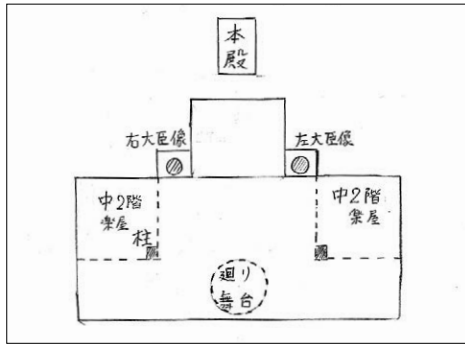
舞台から登
場したと思
われる。村
人はそんな
仕掛けにや
んやの喝采
を浴びせた
のではない
か。

拝殿から本殿に通じる入り
口左右には、約90cmの左大臣、
右大臣の寄木の木座像が置か
れている。朱や青の彩色跡も
見られ、建立間もない頃の美
しさはさぞやと思われる。

奥の本殿には水の神様、
罔象女尊が祀られ、今も4年
に一度奈良の本宮まで木札を
頂きに向くという。

例祭で波田の人々を喜ば
せたものがもうひとつある。
「奉納相撲」である。祭には
出店も並び、沢山の村人が重

の左右の中2階は楽屋として
使われた。往時、毎年5月に
例祭があり、「奉納芝居」が
演じられた。廻り舞台の後ろ
に幕が引かれ、役者は楽屋
から幕の裏側を通って廻り



水神社略図

箱や料理持参で相撲観戦に訪
れたという。昭和30年代前半
の「奉納相撲」の写真を見る
と、地元の開取だろうが、立
派な化粧回しをつけて居並ぶ
姿が写っている。その後ろに
は席を取って幾重にも座る村
人たちの顔が並ぶ。晴れやか
で楽しい、波田の一大イベン
トだったのではないか。5月
といえば農繁期だ。にもかか
わらず、この日は多くの村人
が集まり、終日、祭を楽しん
だであろう。しかし、この例
祭も昭和30年代の後半には行
われなくなった。日本の高度
経済成長の頃と重なる。波田
の暮らしぶりにも変化が起き
てきたのだろうか。

社正面には、今も土俵の盛
り土が残っていて、50年前の
賑わいを偲ばせる。

白山登山

(標高1,387m)



昨年秋、そして今年1月
と下見を重ねながら、山岳会
のメンバーと4月の中旬、青
空が広がる登山日和の日に波
田の山「白山」に登ってしま
した。上波田神社を若澤寺に
向かって水沢林道に入りまし
た。山の神を通り過ぎた先で
橋を渡り、駐車スペースに車
を止めました。ここから若澤
寺入口まで歩きます。護摩堂
や金堂、田村堂などの伽藍の
跡を通って山道に入ります。



若澤寺跡から登ります

急登で
すが、つ
づら折り
で歩きや
すいです。
鉄塔から
は尾根筋
の緩やか

な登りが続きます。落ち葉
の下からカタクリの葉を見つ
け、周辺を見ると群生してい
ました。あまり人は来ないと
思われますが、毎年綺麗に咲
いているのでしょうか。この辺
は、右手遠方は北信の山脈が
見え、眺望のない山だと思っ
ていたのが感動しました。ま
た尾根道には2本の立派なブ
ナの木があり、幹にはクマの



コースタイム

P → 20分 → 若澤寺入口 → 3時間 → 白山山頂 → 2時間 → P

爪跡が、ナ
ラの木には
熊棚が残っ
ていまし
た。山頂直
下は最後の
急登です。
登山道もわからなく、滑り落
ちそうな斜面を踏ん張り登り
ました。山頂には石造りの小
さな祠と三角点があります。
正面には北アルプスを望む
ことができます。下山は途中
まで同じ道でロープを張って
もらい、安心して下りること
ができました。登りの際に蕾
だったカタクリも、陽を浴び
花が咲いている株もありまし
た。分岐で左に折れ、途中一
部道なき道は地図や地形図を
見て下りました。鉄塔まで来
ると国道158号線、赤松地
区が眼下に見えました。約30
分で駐車場に着きました。



石造りの祠

17区 限界集落

1990年代に社会学者の大野晃教授が「限界集落」を提唱したことで、広く知れ渡ることになりました。(過疎化により人口50%以上が65歳以上の高齢者になり、集落の維持が困難となりつつある集落)



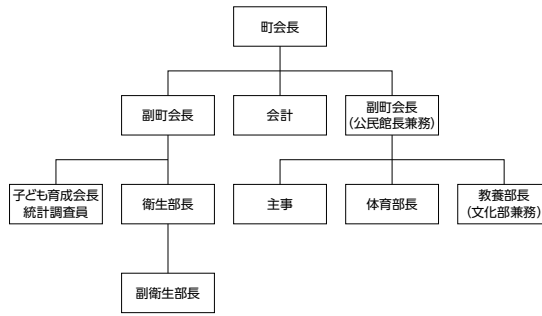
高い山に囲まれた赤松地区

その頃は他人事のように感じていましたが、ついに赤松地区も…。

コロナ禍の中、毎年4月29日(祝日)に行われる通常総会、春祭り、職立て、懇親会(直会)が2年続けての中止となり、増々寂しい春を迎えてしまいました。4月8日に公民館3役、隣組長及び各団体の長と1年間の町会運営について協議を行い、17区の人口構成、人口比率などから最大の懸案である、町会として成り立つための役員構成の見直しが提案されました。町会役員、公民館役員も改選の都度、一人二人と削減し何とか回しながら運営をしてきましたが、この先を見据えて町会と公民館の役員を一本化する

ことで、役員数を減らし尚且つこれまで同様の事業が行われる体制づくりをするということになりました。

総会に代わる書面決議の結果、総会員数152名、書面表決書56名、委任状96名で、全員の賛成をもって可決されました。



17区町会役員 組織図

新体制(奥原町会長)のもと、限界集落の脱却のため若い人たちが「ここに住みたい」と思えるような環境を、役員だけに任せるのではなく、区民全体で考え、活気あふれる地域づくりの取組、自治体への様々なアプローチでより良い17区になることを期待しています。

七夕とスイカと一年生



この時期になると、近所のスイカ畑が賑やかになってきて、訳もなくワクワクしています。

松本地方では、ひと月遅れの行事がいくつかあります。例えば「ひな祭り」や「七夕」もその一つかと思えます。

九州の福岡県小郡市に、七夕神社(媛社神社)という地元の皆さんに愛されている神社があります。その神社でお守りを作ったことがニユースになり、どのようなお守りかと思っていたらなんと「スイカ」のお守りでした。

この地方でも七夕行事は月遅れで行われているようです。七夕の時に小学校一年生のいるお宅に7歳の子のお宅に大きなスイカ(ツル付き)を贈る風習があるとのこと、七夕神社の宮司の長田さんによれば、七夕の神様はスイカに宿るとされ、スイカの玉のように

丸々と、スイカのツルのように伸び伸びと育ってほしいという願いから、七夕にスイカを贈るようになったそう、お守りはこの「七夕スイカ」にあやかっただけのことでした。

小郡市は、市外からの移住者が多く、七夕スイカを知らない人が増えたそうで、伝統を残したいとの思いからこの「お守りスイカ」を作ったそうです。小郡市観光協会の方の話では、七夕にスイカを贈る風習は小郡市だけではなく、近隣の市町村でも行われていて、なぜ小郡市一年生の家なのかは、はっきりわからないようです。

子どもの成長を願い、月遅れの七夕の夜空を楽しみながらスイカをいただきました。と思っています。



炎天下のなかお疲れさまです

県の埋蔵文化財センター調査員のお話では、真光寺遺跡古墳として、今後さらに石積み掘り下げて調査を進めていくようです。

どのような遺物が出土するか興味深いですね。



真光寺遺跡古墳とみられる石積み

1区町会内にある真光寺遺跡で、発掘調査が行われているのをご存知ですか。調査では、「和田堰跡」とみられる溝跡や、「弘治3(1557)年建立の真光寺跡」の遺構として、壺の一部などが出土されています。

注目は何といっても長さ約9m、幅約2mの石積遺構です。



1区町会内にある真光寺遺跡で、発掘調査が行われているのをご存知ですか。調査では、「和田堰跡」とみられる溝跡や、「弘治3(1557)年建立の真光寺跡」の遺構として、壺の一部などが出土されています。